

夏合宿 北ア：唐松～白馬～朝日～親不知

- ◆日程 2019年8月10日(土)～14日(水)
- ◆メンバー L：須田、大塚、前田、山田留、曲、今、富田、大山、柳
小山田、松田、雫、小濱、日比野、山中 計15名

【夏合宿総括】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・須田健一郎

今年の夏合宿は八方から入山して、唐松岳、不帰のキレットを通過して白馬岳、朝日岳、そして梅海新道から日本海親不知に抜ける4泊5日の長いルートであった。しかも最大15名のメンバーで途中合流、途中下山有りという複雑怪奇、融通無碍、自由気儘の大変ユニークな合宿であった。合宿中も色々なハプニングがあったが、この合宿最大のハプニングは立案者の岡村CLが体調不良のため急遽合宿不参加となったため、私がリーダー代行として夏合宿の責任者となったことだろう。正直合宿スタート時には山行内容の詳細についてはあまり把握しておらず多少の戸惑いはあったが生来の適当さから、まあ一何とかなるだろうとの見切り発車であった。

今回の合宿で大変だったことはやはり暑さと混雑だった。猛烈な台風が日本列島に迫って来ていて雨対策に気を配ったが、予想外にほとんど雨は降らず連日の猛暑で熱中症気味のメンバーも多かった。幸い重症化には至らなかったが、酷暑の中、重いザックを背負っての長時間行動はかなり応えた。合宿前の準備・訓練・体調管理が各々の位意識して行えたかという事だろう。辛い思いをするのは当の本人なのだからやはり楽しく山行を行えるようにできる努力はしておきたいものだ。

また装備の不備や過度の飲酒により迷惑を掛けたメンバーもあったが、パーティー全体を危険に晒す行為は厳に慎んで欲しいものだ。猛省するとともに安全意識の向上を図って頂きたい。

北アルプスの人気ルートということもあり、どこもかしこも登山客で溢れていた。予想していた通り、唐松岳頂上山荘のテント場は一杯でテントを張れず小屋泊まりとなった。当然山小屋も混雑していて辛かった。次の



日の白馬岳もテント場のスペースが無くてはや2連敗かと思われたが根性と厚かましきで無理くりテントを設営して連敗を免れるこみとができた。大人数&大型テントの取り合わせではさもありなんというべきであろう。この点は今後の検討課題だろう。

しかしながら結果的には今回の夏合宿は大成功だったと言えるだろう。何と言っても参加者が15名と近年稀に見る多さであり、参加メンバー全員が楽しめた山行だったと思われる。大きな事故や怪我もなく、暑かったが天候も安定していたため予定通りの行動ができた。急造リーダーを盛り立ててくれたメンバー全員にただ感謝 感謝です。

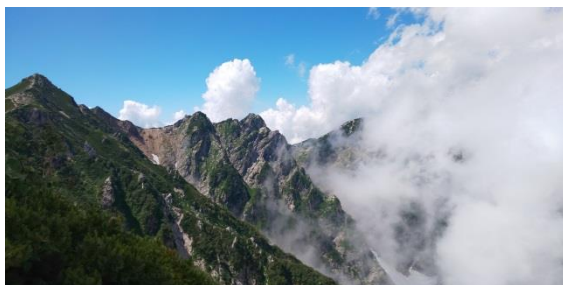
最終日、目の前に日本海が見えたときは感動で一瞬息を呑み、そして自然と喜びの雄たけびが上がった。私だったら真夏にこんなコースは考えなかなっただろうが、こんなに暑くて辛くて長くて、そして山登りの楽しさを十二分に満喫できる山行を考えてくれた岡村CLに感謝したい。次は必ず一緒に行くぞ！！

【山行の報告】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ A,B,C,D,E ルート

8月10日(土) 天候：晴れ (A、B、E ルート 入山)

朝方、少し寒く感じ目が覚めた。予定していた東口駅構内が蒸し暑かったため、西口階段下での仮眠に変更し、涼しく一夜を過ごせた。朝食を摂り、支度を整え、白馬八方を目指して出発した。さすがに連休の始発電車、乗客はほぼ登山客である。車窓から北アルプスの山々が見えてくるころ、信濃大町で乗り換えとなる。信濃大町からは、木崎湖や青木湖がとても綺麗に見え、やがて後立山の山並みが見え始めると間もなく白馬駅に到着した。さらに、バスを利用し八方バスターミナルへ移動する。バスターミナルにはトイレやベンチなどがあるので、水を汲み最終の支度をして八方ゴンドラへ向かった。このルートは、ゴンドラと2本のリフトを乗継、一気に標高 1,836m 八方池山荘に登ることができるので、本日の宿泊地である唐松頂上山荘までは 800m ほど登ればよい。

八方池までは、よく整備されたトレッキングコースといったルートで、登山者ばかりでなく観光客なども多く、また、かなり気温も高かったため、比較的のんびりとしたペースで登った。八方池に着いたころ、それまでかかっていた山頂付近の雲が取れ、翌日のルートである不帰キレットが姿を現す。雪渓を従え大きく切れ落ちた稜線、荒々しい姿ではあるがどこか美しさを感じる山容である。



ここからは本格的な登山道の様相となる。とはいえ、相変わらず登山者は多いので、ペースを上げることはできない。テン場が心配ではあるが、のんびりと登る。やがて、扇雪渓が見えてくると、間もなく丸山ケルンに到着する。すでに 12 時を過ぎていたが、残り 200m もないので地道に歩を進め、13 時半ころ唐松岳山頂小屋に到着した。

まずはテン場の状況を確認すると、かなりの混雑状況である。偵察隊がテン場まで下りて確認するが、やはり幕営のスペースはなく、この日は小屋泊となった。

小屋も大変の混雑で、3人/敷布団2枚の状況であった。とりあえず寝床も確保できたので食堂へ行き、しばしの団らんタイム。しかし、この山荘は自炊スペースが小さい。さらに、自炊者用のテーブルも少ないので、早々に夕食の支度をする。この日の食当は富田さんで、メニューはハンバーグカレーであった。他の自炊者もいるようなので、肉ゴロゴロ+大きな半バーグ入りを早々に食す。かなり肉が多いが、疲れた体でもペロリと食べられる旨さで、皆完食した。ちなみに、肉 1kg と 190g のハンバーグ人数分を担いで上がったようだが、皆のアドバイスでハンバーグは数人で分けることとなったようだ。



食後は、他の自炊者にテーブルを空け、小屋の外で立山連峰を見ながらの団らんタイム。夕日に染まる立山、劔岳がとても美しかった。

(記：大山)

CT：八方池山荘 9:50 - 第三ケルン 10:50 - 丸山ケルン 12:10
- 唐松岳山頂小屋 13:30

8月11日(日) 天候：晴れ (A、B、E ルート)

今回は 15 年間通い続けた白馬での合宿でした。毎年、7月中旬から8月中旬にかけて昭和大学白馬診療部が診療活動を行っており、その活動に参加してきました。いつもは大雪渓や母池

ルートで登下山をされていて、唐松岳は大学4年生の時に下りたのが最後でした。その時すでに、もうこのルートを通るのは体力的に無理なんじゃないか…とと思っていましたが、今回、11年ぶりに唐松岳に登ることができて本当に良かったです。学生の時に登山を始め、最初の頃はビールなんておいしくないと思っていたのですが、登った後のビールが最高と初めて思えたのもこの山でした・・・。



天候にも恵まれて、唐松岳山頂で御来光も見ることができました。雷鳥の親子にも会うことができました。以前、下山した時は、不帰の緊張感が印象的で怖いイメージが強かったのですが、登ってしまえばあっという間で、

それ以降の長い上り坂の方が日差しも強くて辛かったです。毎年診療所1泊で終わってしまいますが、今年は一味違って楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。

「よろず」恥ずかしいので内緒にしていますが、診療所には Dr.お見送りのイベントもあります。♪白馬よさらば～・・・夏に白馬に行かれる方は、赤いシャツを着た団体を探してみてください (笑) (記：柳)

CT：唐松岳山頂小屋 4:30 - 唐松岳山頂 5:00 - 二峰南峰 5:50 - 天狗の大下り 8:30
 - 天狗の頭-天狗山荘 11:30-白馬槍ヶ岳 13:30-杓子岳 14:30-丸山 15:40
 -白馬村営宿舎 15:50

8月11日(日) 天候：晴れ (Cルート 入山)

猿倉荘にて、夜行バスで到着した小濱さんと私は、白馬駅から来た雫さんと合流した。遭対協の方に登山計画書を提出し、入念なチェックを受け、白馬岳への旅が始まった。

林道をしばらく行くと、木々の間からいきなり白馬岳が姿を現し興奮する。登山口から1時間ほどで、「ようこそ大雪溪へ」の表示でおなじみの白馬尻小屋に到着。その先に、青空に照らされキラキラ光った雪溪が現れた。軽アイゼンとヘルメット、サングラスを装着し、雪溪に挑む。傾斜はそれほどきつくはない。真夏の雪上歩きは楽しかったが、高所とは思えぬ30度という暑さで体力を奪われた。

雪溪を抜けると岩場の急斜面が待っていた。ここが一番の難所であったが、高山植物の花畑とアルプスの冷たい雪解け水に癒される。雫さんは花に詳しく、歩きながら名前を色々と教えてくださった。ようやく頂上宿舎に着くと、雫さんが休む間もなくテント場を見に行った。すでにたくさんのテントが張られている中、なんとかテント2張分のスペースを確保できた。

唐松岳から来るチームを待ち、16時過ぎにようやく合流。全員分のテントを張ることは無理かと思われたが、我々が困っているのを見かねた横のテントの男性が場所を譲ってくださり、3つの会テントと小濱さんのソロテントを張ることができた。岩が体に当たり、なかなか寝付けなかった。夜中には雷が鳴り、怖くて余計に眠れなかった。(記：松田)

CT：猿倉荘 6:20 - 白馬尻小屋 7:20 - 岩室跡 10:30 - 白馬岳頂上宿舎 13:20

8月12日(月) 天候：晴れ (A、C、Eルート)

満杯の白馬岳テント場にてどうにか全員テント泊でき朝を迎える。まだ昨日の疲れが取れていないメンバーもいるようだが元気に歩き出す。

まずは白馬山荘目指す、下から白馬山荘を見上げるとホテルの要塞のようで圧巻、到着して

みると大きさにビックリ（明治38年開業、収容人数800人、日本最古の営業山小屋）、レストランもきれい、かつ大きな窓から観る北アルプスの峰々は優雅な感じで違って見えた。ゆっくり休憩をとり山頂目指して歩き出す。山頂は360度の大パノラマ、下は素晴らしい雲海が広がり、近くは後立山連峰、剣岳立山連峰、槍ヶ岳、妙高、火打岳、戸隠、遠くは富士山、加賀白山と本日目指す雪倉岳、朝日岳もよく見える。ゆっくり休憩していると昭和大学医学部白馬診療所に激励に来ていた柳さんも合流し全員で記念写真を撮り出発する。



白馬岳の下山ではコマクサが群生していた。久しぶりに観るが可憐で可愛い花だ。この付近はタカネシオガマの群生が多いようだ。気持ちの良い稜線歩きで景色堪能できた。ほどなく三国境に到着。ここで前田隊とお別れ、何となく別れがたい気持ちになるが、ほとんど人影がない雪倉岳目指して歩き出す。分岐からすぐにまたしてもコマクサの群生が現れる。その先は爽快なハイマツ帯を進む。遠くに分かれた前田隊のシルエットが見え思わず「ヨコハマ！！」と須田Lが叫ぶと返事が返ってきた。嬉しい気持ちになる。鞍部に来て鉢ガ岳に大塚さんが挑戦、他の人はトラバースの一般道に行く。このあたりはマツムシソウ、シナノキンバイ、シロウマアサツキ、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロが多く観られる。いくつかの雪田も残っていた。のんびり歩いていると雪倉避難小屋に着く。ほどなく大塚さんが到着するが鉢ガ岳への道は不明瞭かつ岩場だったので途中で引き返したとの事でした。避難小屋の中は土足禁止、トイレもある。ここから雪倉岳山頂までハイマツ帯の急登が続く。やっとのことで頂上へ立つ。ここも360度の良い展望がある。標高が2611mと6が付くため記念撮影する。雪倉岳標識は四角い墓石のような標識であった。ここから富山湾日本海がうっすら見えた。このころになると白馬岳、朝日岳はガスの中で見えなくなっていた。下りで仲良さそうに餌を食べているライチョウ3羽を見かける。雲行きも怪しくなってきたので先を急ぐ、ザレた稜線から右に出たところに冷たい水場があり休憩する。少し行くと木道が現れハクサンコザクラの咲く、小桜が原に着き木道を少し進むと水平道分岐に着く、可憐な水芭蕉が咲いていた。この時期に会えるとは思っていなかったのが嬉しかった。以前2002年来たとき水平道は名ばかりできついアップダウンの連続でバテた覚えがあるが昨年道を整備し水平道らしくなり歩きやすかった。久しぶりの樹林を歩き若干のアップダウン繰り返すと朝日小屋が見えてきて最後の坂を登り朝日テント場に到着。すぐにテントを張ったのが良く張り終えたと同時に豪雨となりテントの床下を大雨水が流れていた、新しいテントなので全く染みてこないのは助かった。朝日小屋の管理人は清水ゆかりさんで2002年時は可愛い娘さん、今はたくましくなった・・・（記：雫）

CT：白馬テント場 5:20 - 白馬山荘 5:45/6:10 - 白馬岳 6:30/6:45 - 三国境 7:25 -
雪倉避難小屋 9:00 - 雪倉岳 10:10 - 常水 12:00 - 朝日小屋 15:00

8月12日(月) 天候：晴れ時々曇り (Bルート、下山)

夜中に雷が鳴り、テント越しにも上空の稲光が分かった。いつドッカーンと落雷が聞こえるか気が気ではなかったが、幸いテント場にも近くにも落ちなかったようで、雨も降らなかった。

3時起床。4つのテントそれぞれで身支度と朝食の準備を始める。ものすごく密集しているテント場でのヘッドランプの明かりや物音は、周りのテントを気遣うのは難しい。一度、私たちのテントの隣の住民から苦情を受けたのを目撃した。

比較的のんびりと白馬岳に向けて出発。すぐ上の白馬山荘で買い物や写真撮影など思い思いにしばし休憩。すっかり明るくなり、遠くまで見渡せる風景に感動しながら山頂を目指す。近くは劔岳、槍ヶ岳に穂高岳、八ヶ岳と富士山まで望めた。

白馬岳山頂にて白馬診療所に宿泊した柳さんとも合流し、今回の参加者全員で記念撮影。三国境に向かう。沢山の登山者ですれ違い渋滞もあったが30分ほどで三国境に着く。ここで前田L率いる下山パーティーは、須田L率いる縦走パーティーとお別れ。しばらく各々の縦走路を歩いていると、離れた稜線に縦走パーティーを見つけてお互いに声をかけ手を振りあった。

白馬岳までののんびりペースを巻き返すかのように、ここからはスピードアップしてガレ場の稜線をひたすら歩く。太陽は照りつけて暑い。けど景色は最高。鹿島槍ヶ岳が見えてきた。

人影が沢山見える小蓮華山が近づき山頂に着くと、稜線の先にぽっかりと浮かぶ白馬大池が見えた。向かう稜線がずっと見えているが、いつまで経っても到着しない。遠い。登山道脇に咲く高山植物が新しい花に代わるが横目に見るだけ。今回沢山の種類の花と出会えた。



白馬大池に着く。大池の美しさ、お花畑に癒される。大休憩をとり下山する。この先は腰の高さほどもある巨岩が隙間なく並んだ上を、飛び石のごとく越えていく。対向者が多くすれ違いに時間が掛かる。

巨岩が終わり乗鞍岳に着くと、ツアー団体などで混雑していて早々に先を急ぐ。歩きにくさは変わらない。ガレ場を下っていくと雪渓を渡った。

しばらくすると木道が現れ、天狗原の先には水場があり、一刻も早くたどり着きたい。樹林帯に入り、や

っと見つけた「銀嶺水」と書かれた水場があった。小さな流れの水溜りに勇気がいったが、冷たくてとても美味しかった。長い樹林帯を下り、厳しい下りに疲れ果てた頃、梅池自然園にたどり着いた。梅池山荘でさるなしソフトを食べ、ロープウェイ乗り場へ。乗換えの Gondola へ向かう道程が地味にツライ。Gondola を降りると灼熱の下界が待っていた。ここで下山パーティーも解散。白馬駅へ急ぐにも温泉を満喫するにも慌ただしかったが、雨にも降られず素晴らしい景観に恵まれ、全員が無事に歩ききれてほっとした。(記:山田る)

CT:白馬頂上宿舎 5:20 - 白馬岳 6:20/6:50 - 三国境 7:20 - 小蓮華山 8:10 - 白馬大池
9:40/10:20 - 乗鞍岳 10:55 - 梅池 13:05

8月13日(水) 天候:晴れ (C、Eルート 下山)

夏合宿もいよいよ終盤に入り、須田さん、大塚さん、そして雫さん、山中さん、日比野さん小濱の6名で朝日岳を登頂。本隊の2名とは吹上のコルで別れ4名で蓮華温泉へ向かう日。

朝日小屋のテントサイトの朝、昨日バテバテだったのでやや不安な朝を迎えました。しかしながら夜の大雨はすっかり止んで天気なのでホッとしました。早朝の朝日岳でペースが上がらないのを実感するも、とにかく一日しっかりと歩くことを意識しました。朝日岳の山頂は360度大展望で気を取り直したもののすぐに下山、本隊の須田さん大塚さんを吹上のコルで見送りま

した。零リーダー山中さん、日比野さん、私の4名で五輪尾根をひた歩く、この尾根ではニッコウキスゲとヒオウギアヤメが多く咲いていました。進むにつれて咲いている花が変わり高山植物を満喫しました。零さんから花の名前を教わり、歩いているうちに忘れ、同じ花が現れたら再度聞いて覚えなおす記憶力のテストみたいでした。それでも今メモしてあるだけでも、チングルマ、マツムシソウ、アカバナシモツケソウ、車ユリ、トリカブト、ダイモンジソウ、ヤグルマソウ、ウサギギク、それから食中植物のムシトリスミレとモウセンゴケに虫が付いているのを見られたり、梅の木の青紫の松ぼっくりを見たり山道を楽しみました。途中の花園三角点にはベンチもあり、冷たい水も汲めました。途中の川にはつり橋が掛かかり、昔とは違い歩きやすくなっているということでしたが、気温が上がり段々とバテテしまい最後は熱中症のような症状になってしまいました。暑さ対策を失敗してすっかり迷惑をかけてしまって申し訳なかったです。日比野さんの塩昆布に助けてもらいながら蓮華温泉に下山、蓮華温泉では内湯に入り体中に水分を補給しました。まだまだ余裕のある零リーダー、山中さん、日比野さんはもちろんビールで乾杯し、零さん、日比野さんはバスで下山。山中さんはロッジ泊、私はテントサイトに移動しました。

蓮華温泉で久しぶりのお風呂に入ったのち乾杯を楽しみ、零リーダー、山中さん、日比野さんと別れ蓮華の森で一晩過ごし梅池高原へ下山しました。
(記：小濱)

CT:朝日小屋 5:22 - 朝日岳 6:15/6:33 - 吹上のコル 7:05-花園三角点 8:40 - 平馬の平 12:30 - 白馬岳蓮華温泉ロッジ 13:50

8月14日(木) 天候：晴れ (梅池へ 下山)

前日はバテバテで日が沈む前に眠ってしまい、夜中に目が覚めました。外に出るとペルセウス流星群なのか大きな流れ星が見られました。蓮華温泉で温泉に入り下山するか、梅池まで頑張れるか悩みながらも、またまた晴れの予感に助けられて支度をしました。蓮華の森を出て白馬大池へ向かう途中、昨日歩いた雪倉岳-朝日岳-五輪尾根がずっと見えていて元気になりました。そしてこの日は涼しかった、白馬大池では霧が晴れてみたかった景色が現れました。白馬大池より先は登山の方も多くなり白馬乗鞍の安山岩を譲り合って渡り、この日は台風の影響で夜のテント泊は小屋でもお勧めしておらず、多くの下山の方とともに下りました。

いつかやりたいと思っていた縦走ですが、急に実現できて感無量です。寝ても覚めても山にいて歩く、とにかく歩く、ひたすら歩く、本当にいい経験でした。ありがとうございました。
(記：小濱)

CT：蓮華の森 5:00 - 白馬大池 8:04/8:14 - 白馬乗鞍岳 8:45/8:55 - 梅池山荘 10:50-ロープウェイにて下山

8月13日(火) 天候：晴 (Aルート)



朝日岳までは零隊(零L, 山中, 日比野, 小濱)と一緒に進む。早朝とは言え、あっという間に汗だくだ。しかし、山頂ではこれまでの道のりが一望できる素晴らしい景色が待っていた。少し下った吹上げのコルから先は、いよいよ須田Lと二人で日本海を目指す。暫くは気持ちの良い高層湿原歩きだが、高度が下がるにつれ暑さが増す。先の水場の状態が分からないため、稀に会う他のハイカーの情報を頼りに、見つ

け次第補給をしながら進む。湿原最後の水場である黒岩平以降は、山頂手前まで水場がない。たっぷり 2.5 リットル補給しておく。冷たくて美味しい。高度 2000m を下回った辺りから稜線歩きになる。日影がなく、暑さに拍車がかかる。標高に 6 が付く黒岩山、サワガニ山を攻略しながら進む。山頂手前の水場からは翌日の次の水場まで距離があるため、ここではありっただけの容器に 4.5 リットル満タンにした。

翌日の行程も長いため、可能な限りゴールに近付いておきたい。残り時間次第では白鳥小屋迄行こうかと算段したが、梅海山荘への到着時刻が 13 時半。ここから白鳥小屋へは 4 時間だ。残業の目論見は早々に断念して、梅海山荘で寛ぐことにした。途中出会った人は少なかったが小屋内には意外にも 10 人程いるようだ。テント場は空いている。先着した学生 4 人組の他、僕らと同じ方向に向かうソロ 2 名、南下中のソロ 1 名だけ。今夜は昨晚よりさらに広々だ。

夕飯は明るいうちに小屋の軒下で食べた。途中からはほぼ同じペースで進んできたソロハイカーとひとしきりよもやま話に花が咲く。夕方になってテントに入ると、真面目に合宿を振り返る反省会だ。そうこうするうちに 19 時を回った。周囲は既に眠りに就いている。翌朝は暑さを避けて早朝行動を考えているようだ。

(記：大塚)



CT：朝日小屋 5:20 - 朝日岳 6:20/6:30 - 吹上げのコル 6:50 - アヤメ平 7:50/8:00 - 黒岩山 9:40 - サワガニ山 11:10 - 北又の水 12:00/12:20 - 犬ヶ岳 13:20 - 梅海山荘 13:30

8月14日(水) 天候：晴 (Aルート 下山)

3 時起床。朝食は棒ラーメン。水を多めにして固茹でにし、蛋白質と植物繊維たっぷりの乾燥食材をトッピングしたお陰か、すんなりとお腹に収まってくれた。外に出ると学生 4 人組は撤収済みだ。僕らもヘッドランプを頼りに山荘を後にする。下り道とは言え登り返しも多く、全身がずぶ濡れになるほどの発汗で、ゴールまで水を 3 リッターも飲んだ。こんな調子でほぼ全ての水場で休憩するため、テント場で一緒だったソロハイカー 2 名 (60 代前半とみられる地元大町在住男性、40 歳前後とみられる福島在住男性) と休憩のタイミングがなぜか一致する。気付いたらあたかも 4 人のパーティーになっていた。

最終日は暑さと疲労の蓄積から食欲がなく、水分の摂取が多くなった。保存の利くバランス栄養食を多く持っていたが、なかなか手が伸びない。一方、魚肉ソーセージなら食欲が湧き、他のものも口に運ぶことが出来た。その他、一口塩羊羹、塩分補給ラムネなど口溶けが良く、塩分と糖分が補給できる食材は役に立った。終盤でようやく樹々の間から日本海が見えだした。最後は気力で進み、ゴールの親不知だ。間髪入れず、キンキンのコーラを一気飲みしたのは言うまでもない。

それにしても、北アルプス最北部の朝日岳から日本海まで稜線を忠実に結ぶこの梅海新道、この手の踏破は好みだし、天気にも恵まれ楽しい山旅だったが、噂通り暑くてキツかった。このコースを選んだ岡村 CL はさすがだと思うが、開拓した人々にも脱帽だ。歩き通してみても改め

てスタミナの大切さを感じた。ランニングなど日常での基礎体力の維持向上は無駄ではなかった。勿論、共同装備の大半を背負ってくださった須田 L、先に下山したメンバーや、終盤から一緒になった2名の同行者など、仲間がいてこそ成し得たと思う。そして、南西方向への展望の良い場所から常に見えた憧れの剱岳にも大いに励まされた。
(記：大塚)

CT： 梅海山荘 4:20 - 下駒ヶ岳 6:20 - 白鳥山 7:30/7:50 - シキ割りの水場 8:50 -
尻高山 10:40 - 入道山 11:30 - 親不知（日本海） 12:50



【参加メンバーの感想】

(山中) 今回の夏合宿は全行程の踏破/親不知まで行きたいと思っていましたが、最終の親不知行きメンバーは、岡村 C L、須田氏、大塚氏であり、老体気味を最近感じている自分としては断念せざる負えないと感じ、蓮華温泉に下るコースを選択しました。須田、大塚両氏の親不知でのゴール写真を見た時は、やはり自分も行きたかったと後悔しました。おそらく北アルプスから日本海へ下山する事はもう無いと思いますが、元気な内に機会を作って実行したいと思います。蓮華温泉への下山に関しては、雫氏、日比野氏、小濱さんの4人で下山、内湯を浴びて雫、日比野両氏は、その日のうちに松本経由で。小濱さんはテント泊で翌日白馬大池登山。山中は、蓮華温泉ロッジ泊で内湯、外湯の温泉三昧で、翌日 10 時のバスでゆっくり帰った。平岩-南小谷-松本経由、バスで新宿に帰ったが、電車の連結が悪く、糸魚川経由の新幹線で帰った方が良かったと後悔した。松本から新宿へのあずさも全車両指定で空きが無く、高速バスは5分後発車の空きしかなく、酒も買わず、蕎麦も食わず、土産も買わず、トイレも行かずバスに飛び乗って帰った状況でした。

今回の合宿は、天気にも恵まれ、またパートナーにも恵まれて楽しい合宿を終える事ができ有難うございました。今後も体力トレーニングをして山行に参加したいと思います。

(前田) 実は、お盆の登山は初めてなのです。暑い！ 人が多い！ 敬遠してきた理由です。今回、珍しく休みが取れたので参加させていただきました。私が参加した B コースは、登り下りともロープウェイを使うオイシイ行程。ただ、下界の暑さを省略できたものの、人の多さに圧倒されました。テント張る場所がないって事・・・あるんですね。ビックリでした。

また、今回 15 名での行動、いつも一緒に山に行く人、初めて一緒に行く人、山が好きなの同士の絆が深まったと思います。このような体験ができるのは合宿ならではのですね。

(富田) 昨年の冬合宿以降山へ行っていないと体調面で心配でしたか何とかみんなと歩き切ることが出来、また、無事に不帰のキレットも通過することが出来良かったです。3連休ということもあり登山客でにぎわい1日目の唐松小屋のテント場が既に一杯で山小屋泊になってしまいました。2日目のテント場も心配でしたが先に到着した雫さん達が白馬のテント場を先にキープしてくれていたおかげで、何とかテント泊をすることが出来、現金の持ち合わせの無い私は助かりました。思い起こせば一昨年前の夏合宿で燕山荘でもテント場が一杯でテントが張れず山小屋に泊まることとなりました。お天気が良く、非常に日差しが強かったですが高山ということもあり時折、涼しい風が吹き、全体的に歩き易かったです。幸運なことに不帰のキレットを越えた後、歩いていたら雷鳥の親子を見ることが出来ました。また3日目最終日は日中日差しが強かったです天狗山荘で水場があり冷たい水が調達出来助かりました。

今回の反省点は、1日目の夕食担当でしたがカレーに入れるジャガイモ、ニンジンを入れた冷蔵庫に置き忘れてきてしまったことですが事前の日々野さんのアドバイスでオクラを持って良かったです。またキレット越えの際、忘れ物をしてしまいましたがお貸しして頂いてありがとうございました。

(今) 合宿参加の皆様、大変お世話になりました。企画いただいた岡村さん、一緒に行動を共にした皆様、心より感謝申し上げます。そして、日本海まで完登されたお二人、スゴいの一言、敬意を表します。2泊3日のテント泊縦走は個人的には初めての経験で、大変貴重かつ、楽しい思い出となりました。ステーションビバークで先住民(?)に寝床を譲ってもらい、唐松岳では急遽の小屋泊り、白馬テン泊中の夜中の雷、いろんなことがありました。

基本的に好天に恵まれ、本当に素晴らしい景色にたくさん出会うことができ、最良の山行になったと思っています。サポートいただいた皆さま、本当にありがとうございました。

今後ともどうぞ、よろしく願い申し上げます。

(曲) 今回の合宿でいくつか印象深いことがありました。その一 初めての駅寝 駅構内が暑すぎて、階段下り、バス乗り場の外側に先頭部隊と合流、寝場所を確保した。しかし虫もいるし、明るいし、夜中も寒いし、なかなか眠れなかった。その二人で溢れるお盆期間中、山にも賑やかだ。唐松テント場が満杯で山荘に素泊まりとなった。ギューギュー詰めの雑魚寝で大変。白馬テント場では、近隣のご協力および皆んなの力合わせ、なんとかスペースを確保して嬉しかった。天狗原～母池自然園では渋滞に巻き込んでしまった。その三 暑さで負けてしまった 不帰ノ嶮～天狗ノ頭～白馬鎌ヶ岳～丸山 アップダウンが激しい、真夏での登りが結構キツイ、熱中症になりがち、コースタイムより大幅に遅れてしまった。その四 白馬大池テント場が美しい 青空緑山雪渓花畑大池、まるで山水画です。平らな敷地に綺麗に整備され、いつかここでテントを張ろうと思いました。

(小山田) 昨年1月に、強風の唐松岳山頂を目の前に敗退したときに、「あっちが不帰嶮だ」と教えてもらってから、その名前の響きに惹かれて、ずっと通りたいものだと思っていました。実際行ってみればあっけなく、花々が美しい楽しい山行でした。これほどの大人数パーティーは初めての経験で、無事山行がうまくいったのも、岡村 CL の緻密な計画があればこそと思います。また、前回合宿から始まった、途中入山途中下山可能なこのシステムは、参加しやすくなっており、非常にありがたく思っています。

(日比野) 唐松岳は21年振り、白馬岳は24年振りとずいぶん久しぶりの山域であった。岩場あり、ゆったりとした尾根あり、湿原やお花畑もありライチョウもいる。人気があり人が多いのもうなずける。唐松岳山頂からの雲海はすばらしかった。今まで地平線や水平線で地球の

丸さを感じたことはあったが、この時は雲海で地球の丸さを初めて感じた。

毎日天気が良く久し振りの縦走を楽しんだが、とにかく暑かった。熱中症対策を考えなくてはいけないと実感した。水分補給だけでなく行動食、衣服、うちわ等いろいろ。

【山行企画：CLのヒトコト】・・・・・・・・・・・・・・・・・・岡村

夏合宿も春合宿同様、「山行日数の長期化」と「山行人数の最大化」を目指した。途中入山と途中下山ができるものとし、八方尾根から入山して梅海新道を抜けて日本海に至るという計画であるが、途中、白馬から下山するもよし、白馬から入山し朝日から下山するもよし、とした。このコースはひたすら北を目指し、不帰の岩稜を抜けると白馬、朝日に近づくに連れてたおやかな稜線となり、最後はアルプスの頂から海拔0mで日本海に至るというダイナミックなものだ。ゴールも親不知で「ついに陸が尽きる」という形で終わるというのもロマンがあると思った。

このように計画を練りに練って、準備会も行って準備を万端に整えてきたのであったが、不摂生が祟ったのか、CLである私が夏風邪にやられ、結局この合宿に参加できなかったのは痛恨の極みであり、遺憾である。にもかかわらず、総体として無事に楽しく夏合宿が実施されたのは、CLを代行してくれた須田さんをはじめとして、参加者のみなさんの尽力があったからだと思う。本当に行きたかったコースであるので、チャンスを見つけて行きたいと思う。

【装備】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小山田

今回15名という大人数で、テント3張りという大所帯となった。No21(ダンロップ5人用)とNo26(エスパース6,7人用)を先に上げ、白馬からの乗チームにNo25(エスパース2,3人用)を持参してもらい、重いNo21は白馬下山の前田チームが下すこととした。その先の朝日岳下山チームにNo26を下ろしてもらい、最終的にはNo25を二人で使い、人数に適した形となった。

ただ、装備とは違うことだが、トップシーズンのテント場は非常に混んでおり、唐松岳では張れる場所がなく、小屋泊りとなってしまった。白馬も同様で、岩の上に不安定に張らざるをえなかった。前日から入山してテントスペース確保の先発隊を出すなど、とくに混雑が予想される時期は今後対策が必要と思われる。

コッヘルはNo6とNo9の2セットで充分足りた。

ガス缶に関して、10缶用意したが、使ったのは4缶弱。天気が良く寒くなかったせいもあるが、この人数でも、6〜7缶でよかったように思う。会のガスヘッドが古く、個人のものに依拠しがちなので、新しいものを購入検討してはどうかと思う。

【食料】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日比野

今回は夏山の縦走ということを考えて、生肉・葉物の生野菜をひかえ可能な範囲で軽量化をしてくださいとお願いした。

初日のカレーは調理するものだったので、重さを考えジャガイモをやめてナス・オクラ・キノコ等の軽い食材へ変更依頼。肉とタマネギは炒めて冷凍したものを用意してもらったが、肉が1kgあり、トッピングのハンバーグを考えると、少量にするか、無しでも良かった。

11日夜は最大人数15名のため、鍋の容量オーバーの問題があり、調理不要のフリーズドライのビビンパにした。

朝食は毎日麺類だが、ラーメン、スープパスタ、フォーと毎日種類が違い楽しめた。ラーメンのトッピングに角煮は意外であったが、予想外に美味しかった。

スープパスタとフォーは、ゆで汁がどろどろにならずスープの量がしっかりあって食べやすかった。朝食にはいいと思った。食料表を添付する。

2019年夏合宿 食料表

日程		テ ン 場	人数	担当	メニュー	食材
10日	夜	唐 松	12 (男8, 女4)	富田	カレーライス	α米(200g)×4袋 カレールー、オクラ、玉ネギ&肉(炒めて冷凍したもの)、ハンバーグ
11日	朝		12 (男8, 女4)	山田留	ラーメン	ラーメン9食分 ワントンスープ、乾燥野菜、角煮(真空パック)
	夜	白 馬	15 (男9, 女6)	日比野	ビビンバ ねぎ塩わかめス ープ 海藻サラダ	ビビンバ(フリーズドライ 100g)×12袋 ねぎ塩わかめスープ、海藻サラダ
12日	朝		15 (男9, 女6)	小山田	スープパスタ	パスタ入りインスタントスープ(クノールスープデリトマト味)×10食分 早茹でマカロニ 300g、乾燥野菜、粉チーズ、サラダチキン
	夜	朝 日	6 (男5, 女1)	雫	中華丼 or 牛丼 中華スープ 海藻サラダ	α米(200g)×2袋 中華丼(レトルト)、牛丼(レトルト) 中華スープ、海藻サラダ
13日	朝		6 (男5, 女1)	小濱	フォー	フォー(40g)×4個 粉末野菜スープ、魚肉ソーセージ、サラダチキン
	夜	柁 海	2 (男2)	各自	-	-
14日	朝		2 (男2)	大塚	ラーメン	棒ラーメン×2人前 乾燥野菜、乾燥小エビ、大豆ミート(挽肉タイプ)、乾燥卵スープ x2袋

以上